

## 米国フロリダ州 オレンジの作柄は過去のハリケーンの影響から回復

FreshPlaza 2025年11月17日

フロリダ州の生産者と出荷業者は、今年の柑橘類の収穫に大きな期待を寄せている。フィークファミリー柑橘類農場のダグ・フィーク氏は、「ここ数年見られなかったような果実の着色と成熟目にしていて。果実の品質は非常に良好で、サイズも良くなり、果汁用オレンジのブリックス値は10.5を超えている。外観と内部品質の両方が向上している。我々の果実は本格的に好転した」と話す。(以下「」は同氏の話)

ネーブルもブリックス値10.25~10.50と糖度が高く、ブリックス値9.5で収穫されたネーブルが多かった昨年に比べて改善した。これは、同州が数シーズンにわたり困難に直面してきた後での成果であり、特に2024/25年度シーズンはハリケーンミルトンの影響を受けた。「今年はシーズン入りの時期に雨が多く、9月から10月初めにかけて過剰な降雨があった。それ以外は全体的に天候条件が良好で、今その恩恵を受けている。」

収穫量も増加している。「オレンジについては、これまでの収穫量が昨年比で35~50%多い」同氏は、グレープフルーツの収穫量も約25%増加し、タンジェリンも10~25%多く、昨年のハリケーンによる打撃からの大幅な回復であると指摘した。

**生食用と果汁用の両方を出荷** フロリダ州の収穫は、月末に果汁工場が稼働を開始する時期に合わせて始まっているが、同農場では生食用の出荷も行っている。需要は平年並みである。「輸入品が増加しており、カリフォルニア州産を少し圧迫している。それは我々も圧迫されているということだ。今季は果汁価格が下落しているが、その分オレンジの価格設定に柔軟性が生じている。」同氏は、需要が今後増加すると予想している。「人々がフロリダ州産果汁を口にしてその品質を味わえば、需要は高まるだろう。」今後について同氏は、同州ではこのような作柄が続くであろうと楽観的である。「私が見る限り、今後もより良い年が続きそうだ。」

執筆者：アストリッド・ファン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

## トルコ 多くのザクロ生産者が出荷の一部を国内市場に振り替え

FreshPlaza 2025年11月17日

ウルダー青果物輸出業者協会(UYMSIB(ウルダーはブルサ県を代表する山の名前))理事のイギット・ギョキギット氏は、トルコのザクロシーズンは、他の多くの果実と同様に今年の春の霜害の影響を受けたと語る(以下「」は同氏の話)。「2025年のザクロシーズンは、この春トルコで発生した霜害によって大きな影響を受けた。ほとんどの地域で、過去のシーズンと比べて収穫量が明らかに減少した。エーゲ海地方、地中海地方、それに国の東部等で最も深刻な被害を受けた。収穫量が減少したため需要が供給を上回り、生産者価格が上昇した。さらに、一部地域では収穫期に降雨があり、一部の果実で裂果が発生した。」

同氏によると、国内市場での需要が高まったため、一部の生産者はザクロを輸出せずにトルコの国内市場に振り向いた。「地域によっては、過去数年と比べて収穫量が50%以上減少した。これにより国内市場と輸出向けの両方で供給不足が生じた。全体として、トルコのザクロ生産量は過去の平均値から大幅に減少した。今年は国内市場がこれまで以上に堅調で、活発である。生産者価格と小売価格が急激に上昇して国内市場の魅力が増し、多くの場合に輸出よりも収益性が高い。その結果、多くの生産者が生産物の一部を国内市場に振り向いた。」

年末の休暇シーズンを控え、ヨーロッパではザクロの需要が次第に高まると同氏は予測している。「ヨーロッパの需要は今後数週間で増加すると予想される。12月、特に休暇シーズン前は、従来からトルコ産ザクロ輸出の最盛期であり、今年も同様の傾向を見込んでいる。シーズン後半には、中東欧諸国とロシアが主要市場になると予想されるが、2025年の出荷シーズンは例年より早く終了する可能性が高い。供給量が減少するため、1月以降は手ごろな価格でザクロを調達することが次第に難しくなるだろう。」

「今年は困難な年であったが、ザクロはトルコにとって戦略的に重要な果実である。栽培条件の改善と市場の強い需要により、今後はトルコ産ザクロにとってさらなる成功のシーズンになると自信を持っている。」

執筆者：ニック・ピーターズ